

1 国語科で目指す生徒の姿

互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合いながら自分の考えを更新する生徒

2 国語科の研究テーマ

自己の考えを形成する力を高める学習の在り方

3 研究テーマの具現に向けて

単元「現代社会の状況と重ね合わせながら読む—『挨拶—原爆の写真によせて』」（令和7年7月・3年）では、筆者の考えや、自分と友との詩に対する解釈の相違点や共通点を基に、「平和」に対する自分の意見をもつ学習を構想した。そこでは、単元の学習を通して、詩の解釈を基に捉えた筆者の考えや友の考えをメモする活動を位置付けた。

H生は、単元の学習問題「平和の対義語は何か」について、詩を読んで理解したことを基に、「立場が異なれば考えも異なるため、様々な人の考えを知り、自分自身も深く考える必要がある。それができていないと争いが起こるから、平和の対義語は『争い』だ。」という自己の考えをもった。H生は、さらに詩の解釈を進め、「油断していた」という表現を「原爆を過去の出来事にしてはならない」という筆者からの警告として捉えたり、友の「平和の対義語は『人間の欲』である。欲は問題を深く考えずに自分を優先するから生まれる。」という友の考えを聞いたりして、メモに記録した。そして、単元終末には「平和の対義語は『世界の問題の軽視』である。」と自己の考えを更新した。このようなH生の姿は、自己の考えと、詩に表れているものの見方や考え方や他者の考えとを比べたりして、自己の考えを広げたり深めたりした姿であることから、国語科の研究テーマを具現した姿と捉えた。しかし、生徒自身が自己の考えの変容についてまでは自覚できていなかったことから、自己の考えの変容を捉えることが課題として残った。

そこで、単元「言葉との向き合い方を考える—『それでも、言葉を』」（3年）では、筆者の考えや友の考えから得た気付きと自己の考えとの共通点や相違点を基に、自己の考えを更新し、自分の意見をもつ学習を構想する。そこでは、単元の学習を通して「筆者の考え」・「友の考え」・「自分の考え」の3つの視点で学習カードに考えを整理する活動を位置付ける（資料）。教師は、単元の学習問題「自分はこれから言葉とどう向き合っていくとよいのだろうか。」を生徒と共に設定し、「言葉と私」というコラムを提示する。生徒は、自分にとって言葉とはどのようなものかについて自己の考えをもつだろう。次に、教師は、生徒が本文の比喩表現や抽象的な表現について、既存の知識や自己の経験から具体例を挙げながら、それらについて友と考えを共有する場を設ける。生徒は、筆者や友の考えから言葉に対する考えを広げ、広がった考えの中から納得できるものを選択したり、自分の考えとすり合わせたりしながら、単元の学習問題に対する自己の考えを深めていくだろう。さらに、生徒は、単元を通して、「筆者の考え」・「友の考え」・「自分の考え」の3つの視点から、考えを広げたり深めたりしている過程を学習カードに書き留め、自分の考えが誰のどのような考えによって変容したのかを整理することで、自分の考えがどのように形成されていくのかを自覚していくだろう。そして、言葉を通して出会った他者の考えを尊重しながら自己の考えを更新し、自分の意見をもつことができるだろう。

以上のような学習を積み重ねていくことで、国語科の研究テーマを具現し、目指す生徒の姿に迫ることができると考えた。

4 単元名・学年

「言葉との向き合い方を考える—『それでも、言葉を』」・3年

5 単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

- (1) 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。 【(3) オ】
- (2) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 【C (1) エ】
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。	思 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。	態 今までの学習を生かして積極的に自分と友との考えを比較し、言葉について自分の意見をもとうとしている。

7 自分の考えを形成する力を高めるための単元の手立て

- ・単元の学習を通して「筆者の考え」・「友の考え」・「自分の考え」の3つの視点で学習カードに考えを整理する活動を位置付ける。

8 単元展開 筆者の考えや友の考えから得た気づきと自己の考えとの共通点や相違点を基に、自己の考えを更新し、自分の意見をもつ学習

単元終末の生徒の振り返り（例）

今までは何気なく言葉を使っていて、言葉は意思疎通の道具だと思っていたが、使い方や使う人次第で、さまざまな意味をもつものと分かり、ただの道具ではなく、使う人そのものを表すものだと考えるようになった。鷲田さんの文章を読んで、「言葉の肌理」という言葉がとても印象に残り、自分の言葉がどのようなニュアンスで相手に伝わるのかを意識しながら言葉を使わなくてはならないと改めて感じた。SNSやメールなどでは特に、気付かないうちに相手を傷つけてしまうことがあるかもしれないので、これからも「言葉の肌理」という言葉を忘れずに言葉を使っていきたい。

全6時間扱い 本時は第5時

段階	◆ねらい ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 教師の指導・支援	評価の観点	時間
導入	◆ <u>単元の学習の見通しをもつ</u> ・教科書のコラム「言葉と私」を紹介し、言葉と自分とのかかわりについて振り返り、 単元の学習問題 「自分はこれから言葉とどう向き合っていくとよいのだろうか。」を設定する。	● 態	1
展開	◆ <u>筆者の考えや、自分や友との解釈の相違点や共通点について考える</u> ・「言葉の肌理」、「言葉の無力さ」などの抽象的な表現について、既存の知識や自分の経験を基に、筆者の考えを解釈する場を設ける。 ・筆者の考えについて、どのような例証を挙げて捉えたか、どのような例証が適切かを検討する場を設ける。 ・解釈したことを基に、言葉について考えた自分の考えをまとめる。 本時案参照（第5時）	○ 知 ○ 技 ○ 思 ● 態	2 ～ 5
終末	◆ <u>単元の学習を振り返り、単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる</u> ・これまで学習カードに記述された3つの視点に関連させ、自分の意見をまとめる場を設ける。	○ 思 ○ 態	6

9 本時案

(1) 単元名・学年 「言葉との向き合い方を考えるー『それでも、言葉を』」・3年

(2) 主眼

※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

自分はこれから言葉とどう向き合っていくとよいかについての考えを共有する場面で、相違点や共通点に着目しながら友の考えを学習カードに記録し、自分の考えと比較することを通して、自分の考えに影響している事柄は何か自覚しながら学習問題に対する自分の考えを広げることができる。

【C (1) エ】

(3) 単元の学習問題：自分はこれから言葉とどう向き合っていくとよいのだろうか。

(4) 本時の位置 (全6時間中 第5時)

前時：筆者の考えを基に、単元の学習問題に対する自分の考えをもった。

次時：3つの視点を関連させ、単元の学習問題に対する自分の意見をまとめる。

(5) 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 単元の学習問題を確認し、学習課題を据える。	単元の学習問題：自分はこれから言葉とどう向き合っていくとよいのだろうか。 ア 私は筆者のいう「言葉の肌理」に注目した。言葉の背景にあるものにもっと意識を向けて、相手の伝えたいことを受け止めたい。友はどのような考えをもったのだろうか。 イ 友と考えを比較して、相違点や共通点を見つければ、自分の考えも広がりそうだ。	・前時の振り返りを紹介し、アのような反応から単元の学習問題を確認する。 ・イのような生徒の考えを取り上げ、比較する際の観点を確認して学習課題を据える。	5分
		学習課題：相違点や共通点に着目しながら友と考えを共有し、自分の考えと比較しよう。		
展開	2 三人一組で考えを共有し、印象に残ったことを記録する。	ウ Aさんは、忙しくて大変になると友達が「盛り上がってきた」と言ったことから、裏返して表現することで自分の視点を変えることができる言葉の力を積極的に使っていた。 エ Bさんは、驚田さんのいう、言葉にある「独特の厚み」によって誤解やすれ違いが起こることもまた事実であると言っていた。発信する側は、相手に受け取ってもらえることを当然と思わず、言葉を尽くすことが必要ではないか。	・学習問題に対して異なる視点で考えている生徒同士のグループを編成し、生徒に提示する。 ・友の考えと比較して聞き、相違点や共通点から話題を決め、話し合うように促す。 ・印象に残った友の考えやそれに対する自分の考えについて、学習カードに記録するように促す。	15分
	3 単元の学習問題に対する自分の考えをまとめる。	オ Bさんの言っていた「言葉を尽くす」が印象に残っている。前回の全体追究で「すぐに変化は見えない」という発言について、多くの反対意見が出たけれど、話をしていく内に、始めに発言した人もそうでない人も考えに重なりがあることが見えた。言葉の肌理への想像力だけでなく、互いに何とか伝わるように言葉にすることも大切そうだ。	・印象に残っている友の考えや、友の考えから得た気づきについて詳しく記述するように促す。 ・友の考えと比較した際、「同じ」「違う」だけでなく、「間」についても考えるように声掛けをする。	10分
	4 まとめた考えを全体で共有する。	カ Cさんは、私と同じように「言葉の肌理」に注目して、相手の言葉の背景を大切にしたいと考えていたけれど、Dさんの話を聞いて、相手の言葉を分かることの難しさについて考えたと言っていた。相手の人柄や今まで話したことの内容から、雰囲気や相手の言いたいことをすぐに「分かる」と言ってしまうがちだけど、本当に自分の想像したものと相手の言いたいことが重なっているとは限らない。やはり、互いに言葉にしながら確認することが必要そうだ。	・友の考えを聞いて自分の考えが変化したと感じているカのような生徒の発言を取り上げ、全体で共有する。 ・筆者の考えと関連する部分はないか問い返す。	15分
終末			自分の考えに影響している事柄は何か自覚しながら学習問題に対する自分の考えを広げている。(発言、学習カード)	
	5 本時を振り返る。	キ 特にBさんの言葉に影響を受けた。「相手に受け取ってもらえることを当然と思わず、言葉を尽くすことが必要」とも言っていた。実際は難しいけれど、言葉にすることを諦めない姿勢が大切なのかもしれない。	・本時を通して、誰の言葉が、自分の今の考えに最も影響したかに着目するように助言し、本時の振り返りを書くように促す。	5分